ちょっと一口メモ **「へぇ!!そうなんだ」**　　17 班　石渡

第2回　往馬大社の火祭りと火燧木(ひきりぎ)

今回は毎年10月体育の日前日に奈良県指定無形民俗文化財である「**火祭り**」が行われる往馬大社(生駒市壱分町)をご案内します。

今年(平成28年)の火祭りは10月8日(土)宵宮、9日(日)本祭です。一度ご覧になっては如何ですか。 近鉄一分駅から600m のところにあります。

平成 28 年 10 月5日

第2回　往馬大社の火祭りと火燧木(ひきりぎ)

生駒市壱分町にある往馬大社(正式には往馬坐伊古麻都比古神社)の歴史は古く、創立年代は定かではないが、大神神社(三輪明神)と同様に神奈備(山)を御神体(生駒山)として祀られた日本有数の古社である。最も古い記述は「総国風土記」の雄略天皇三年(458)で、この年を御鎮座とすると今年で1558年を迎える。

往馬坐伊古麻都比古(いこまにいますいこまつひこ)神社の表記は難しいが、「イコマにおられるイコマツヒコを祀る神社」というわかりやすい名前でもある。

他にも〇〇坐神社と表記している神社があれば、〇〇の地に鎮座する神社という意味なので、〇〇にいます神社と読むと当時の地名がわかって面白い。

本殿

現在の祭神は産土神の二座と八幡神の五座が祀られている。本殿は七つの社殿が横一列に並ぶ七連春日造で、珍しい社殿となっている。

(「第 60 次式年造替」の修理を終えた春日大社の本殿は四連春日造なので、その社殿の多さがわかる)

火祭り

往馬大社は古くから火を司る神として崇敬厚く、毎年 10 月体育の日前日に行われる火祭りは奈良県無形民俗文化財に指定されている。本祭で行われる「火取り」は僅か7段の階段をどちらが早く駆け下るか、燃え盛る松明は御串にも火を移し、あっという間に御旅所を走り去る。一瞬のクライマックス。 また、宵祭の見どころは宵宮火･祈願木焚上(18時～)で、豪快に燃え盛る大松明。昨年はその炎に立ち馬が現れた。さあ一今年はどんな馬が現れるか楽しみです。　**平成 28 年度火祭りは 10 月 8 日(土)～9 日(日)**

(左) 昨年の宵宮　宵宮火･祈願木焚上で現れた立ち馬

(下) 本祭の「火取り」行事　クライマックス

火燧木(ひきりぎ)

さて、今上天皇が生前退位のお気持ちを述べられたことは記憶に新しい。平安時代の書物「北山抄」「亀相記」などに天皇の大嘗祭(天皇が即位の礼の後、初めて行う新嘗祭)に関わる火燧木を当社より納めた歴史が記されている。昭和や平成の大嘗祭の「斎田點定の儀」に用いる火燧木も当社御神木の上溝桜が使用された。　いずれの日か現皇太子が天皇に即位された際の大嘗祭にも、往馬大社の上溝桜が献上されることと思うと、なにやら誇らしさを感じませんか。

では、その上溝桜(うわみずざくら)はどんな木？

バラ科ウワミズザクラ属の落葉高木で、別名・波波迦、金剛桜ともいう。桜でもソメイヨシノ等の桜(バラ科サクラ属)と異なり、４月末～５月にブラシ状の純白の花をつける。(下の写真)　果実は赤褐色に熟し食べられる。北海道西南～九州の山野に自生、寒冷な地方に多い。彫刻細工、版木などに利用される。

上　溝　桜

難解な言葉をちょっと補足

斎田點定の儀とは、悠紀及び主基の両地方（斎田を設ける地方）を定めるための儀式
平成は 悠紀の地方・秋田県、　主基の地方・大分県と定められた。(宮内庁 HP から)

火燧木とは、　火を燧(き)りだす木　火燧杵と火燧臼で起こした火を細く割った波波迦木に移し、亀の甲羅を焼いて占うことから、その名の由来となったようである。

現在本殿の御祭神

伊古麻都比古神(産土大神)（いこまつひこのかみ）
伊古麻都比責神(産土大神)（いこまつひめのかみ）
気長足比売尊(神功皇后)（おきながたらしひめのみこと）
足仲津比古尊(仲哀天皇)（たらしなかつひこのみこと）
誉田別尊(応神天皇)（ほんだわけのみこと）
葛城高額姫命(神功皇后の母君)（かつらぎたかぬかひめのみこと）
気長宿祢王命(神功皇后の父君)（おきながすくねおうのみこと）

その他にも往馬大社には鎌倉時代の生駒曼荼羅(重要文化財)や、極相林(奈良県指定天然記念物)などがあるが、それらはまたの機会に番外編でお伝えしたいと思います。